

親子読書



親子で1冊の本を読む親子読書。親子読書は、①おうちの人といっしょに本を読む ②おうちの人に読んでもらうのどちらかの方法で行います。温かい親子の交流が思い浮かぶ低学年の親子読書を紹介します。

ざんねんないきものじてん

ぼくがいちばんびっくりしたことは、ラッコのことです。全体の毛で8おくにもなることと、毛がよごれると空気をためるとらきがよわまり、体がぬれてとうしてしてしまうことです。ラッコは毛づくろいをたくさんしないといけないことです。(2年生)



子どもと交代しながら読み、お互いにおもしろいと思った動物や感想を言い合いました。一緒に本が読めて楽しい時間でした。(2年保護者)

やまたのおろち

やまたのおろちをたおすとき、みんながたすけあったところがいなとおもいました。(2年生)



日本の神話として有名な一説で、子供時代に読んだ記憶があります。大人になって読み返すと、当時は想像できなかった背景などが思い浮かべられ、改めて読書の大切さを感じました。(2年保護者)

もうぬげない

ふくがひっかかったまま、お外に出ることがおもしろかったです。(2年生)



絵本に出てくるお母さんと同じ表情で全く同じ体験をしたことを思い出し、娘と楽しく読書をさせてもらいました。その時のことを娘に話し、二人で大笑いしました。(2年保護者)

りすくんとくまくんはいつもなかよいで、りすくんが何がほしいと言ってもくまくんは何もほしがらないけど、くまくんはりすくんに君とえられるだけでぼくはうれしいよと言った場面が心にのこりました。(3年生)

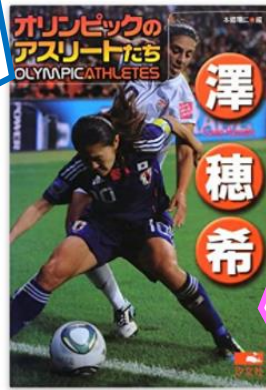


いちばんしあわせなおくりもの

とくべつなプレゼントがなくても、大事な人がそばにいただけで幸せなことに気づきました。(3年保護者)

私はこの本を読んで、澤穂希さんは何事にも熱心で負けずらいなことがわかりました。自分たちより体が大きくて、わざもかんぺきにできている人にたいして、「この人たちよりうまくなるんだ」と思う心がすごいと思いました。私も澤穂希さんのようにいつでもどんな時でも、前を向いてがんばりたいとあらためて思いました。(4年生)

オリンピックのアスリートたち 澤 穂希



今まさに東京オリンピックが開催されている中、この本を親子読書で読み、改めて一流選手の並々ならぬ努力と精神力を知りました。そして、この本で「いつでもどんな時でも前を向いてがんばりたい」と感じたことをうれしく思います。(4年保護者)

「いのちは君たちの持っている時間ですよ」という言葉を残したいです。その理由は、おじいさん先生はいのちの時間と言っていたけど、私は命は心臓にあると考えていたので、いのちは時間と聞いて心にじんときたからです。(5年生)

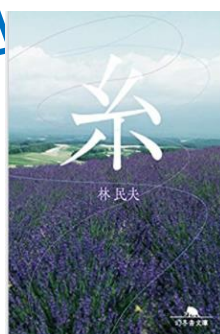
いのちのおはなし



100歳を超えても現役の医師として医療に携わっていらっしゃる日野原先生。「いのちをむだにしないということは、時間をむだにしないこと」を忘れずに生きていきたいなと思いました。(5年保護者)

私は、葵と漣が引き離されても、漣はずっとあきらめずに葵を見つけ出す粘り強い気持ちに感動しました。二人の糸がつながり再会することができたのでよかったと思いました。私も漣と葵のように強く生きる人になり、糸を最後までつなげていきたいです。(5年生)

糸



これからの人生の中で主人公のように自分の思いを断ち切ったり、他の誰かとつながったり。その人をあたため、時に迷い、途切れた糸をつむいでいく・・・そうして人は本当に大切なものにめぐりあうのだろう。(5年保護者)